

## 新規膜蛋白分子腫瘍マーカーの開発研究

### 1. 研究の対象

2015年～2017年に大島町で実施した「バイオマーカーを用いた大腸がんおよび前がん病変の診断ツール検証のためのフィールド構築」に参加いただいた方

2002年1月（中央）/2005年4月（東）～2029年3月までに国立がん研究センター中央病院及び東病院を受診した大腸がんの患者さんで、バイオバンクに血液検体を提供してくださった方

「大腸癌における新規がん特異抗体の免疫組織化学染色に関する観察研究（研究課題番号 2021-268）」にご参加くださった方

### 2. 研究目的・方法

私たちは DNA マイクロアレイ解析法を用いて正常大腸上皮細胞よりも大腸がん細胞において発現が有意に亢進している 9 個の遺伝子を同定し、それらのモノクローナル抗体を作製しました。本研究ではそれらのモノクローナル抗体を使って血中のタンパク量を測定できる ELISA 法や抗体付加磁性ビーズを用いた CLEIA 法を開発し、これらが腫瘍マーカーとして有用かどうかを検討します。加えて、「大腸癌における新規がん特異抗体の免疫組織化学染色に関する観察研究(研究課題番号 2021-268)」で得られた結果とあわせて比較検討します。

また、一方で、私たちはがんの進展に伴い、血液凝固亢進が起きることを発見しました。この血液凝固の最終産物で不溶性フィブリンの分解産物である FDP(Fibrin degradation product)を測定し、上記の腫瘍マーカー候補物質との関連についても検討します。

研究実施期間：2015年08月26日 ～ 2029年03月31日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：研究登録番号、臨床情報

試料：血液、組織、尿

### 4. 外部への試料・情報の提供

国立がん研究センター中央病院消化管内科へ試料・情報の提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、「バイオマーカーを用いた大腸がんおよび

前がん病変の診断ツール検証のためのフィールド構築」の研究責任者が保管・管理します。

## 5. 研究組織

国立がん研究センター中央病院 消化管内科 高島淳生  
国立がん研究センター 先端医療開発センター 新薬開発分野 安永正浩、古賀宣勝  
国立がん研究センター東病院 消化管内科 設楽紘平、川添彬人  
肝胆膵内科 池田公史、光永修一  
消化管内視鏡科 矢野友規  
大腸外科 伊藤雅昭  
肝胆膵外科 後藤田直人  
国立がん研究センター中央病院 脳脊髄腫瘍科 成田善孝  
消化管内科 加藤健、潘小青  
大腸外科 金光幸秀  
消化管内視鏡科 斎藤豊

株式会社凜研究所 松村保広（客員研究員：国立がん研究センター研究所 免疫創薬部門兼任）、西條信史

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立がん研究センター中央病院 消化管内科：高島淳生

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

電話 03-3542-2511(代表) 内線 7764

Fax. 03-3542-3815

E-mail atakashi●ncc.go.jp

研究責任者：

国立がん研究センター中央病院 消化管内科：高島淳生

**研究代表者：**

国立がん研究センター中央病院 消化管内科：高島淳生